

# 令和元年度 長野県農業大学校 評価表

## 1 学校教育目標

内 容	R元評価
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	B

## 2 重点目標

内 容	R元評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	B

成果と課題欄の凡例 ○:成果 ●:課題  
R元評価欄の凡例 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

## 3 当該年度の評価項目等

### (1) 共通項目

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R元評価																				
			成果と課題	改善策																					
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<b>授業改善に向けた取り組み</b> ○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。  ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、より良い学校づくりの参考にしたか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。	<b>○授業実施状況</b> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">充足率(%)</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3観点による授業</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実物を用いた授業</td> <td>87</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントを用いた授業</td> <td>59</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>中間テストを用いた授業</td> <td>34</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>その他の取り組み</td> <td>63</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> ○栽培知識、技術についての授業では実物を準備したり、生理・生態、病害について理解させるよう努めた。また多くの授業でパワーポイントを利用しており、圃場での実物の説明も実施した。 ○実物を観察する上で教科書の理解が重要であることを指導した。 ●高校時代の学習の有無や家での体験の有無により技術や知識に差が見られる。 ○4月に1、2学年の面談を行うとともに11月に再度1学年生と面談し、進路指導や要望を聞き対応した。また普段の生活の中でも要望を聞き取った。  ○学生の理解度を確認するために、学生への質問・意見交換・中間テストを実施した。 ○8月に学生への授業アンケートを実施し、その結果を教務会議で共有して授業改善に役立てた。 ●文章表現が十分でない学生がいる。	項目	充足率(%)		R1	H30	3観点による授業	100	100	実物を用いた授業	87	71	パワーポイントを用いた授業	59	55	中間テストを用いた授業	34	35	その他の取り組み	63	45	・基礎的な学習にある程度時間をかけると同時に、理解している学生にはレポート等で複雑な課題を与える。 ・1学年末から職員間で情報を共有し、学生の進路決定につなげる。  ・ゼミなどのレポートを添削することで指導する。	B
		項目	充足率(%)																						
			R1	H30																					
		3観点による授業	100	100																					
		実物を用いた授業	87	71																					
パワーポイントを用いた授業	59	55																							
中間テストを用いた授業	34	35																							
その他の取り組み	63	45																							
<b>新しい知識・技術への対応</b> ○ スマート農業に関する講義の実施と関連企業との連携強化ができたか。  ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義を行ったか。 ○ 国際水準GAPの知識習得や、農業経営におけるGAP(農業生産工程管理)について講義、演習を実施したか。	○新たに「スマート農業論」を1単位開講し先端知識習得を図った。またシステムメーカーとの連携による授業を行った。 ○みどりクラウド導入によりプロジェクト研究のデータ収集やハウス管理の効率化を図った。 ○1学年は農業経営演習Ⅰで、2学年はゼミナールで青年農業者や先進農家への視察研修を行うとともに講義も行った。学生の関心は高い。 ○前期は2学年のGAP認証取得の手法を修得する演習を実施した。1年生は12月から講義を実施した。 ●大豆でのGGAP取得について、あらましを演習したが、GAPの活用について、理解が進まなかった。	・スマート農業論を3単位に拡充し講義、演習による学習意欲の向上を目指す。  ・GAPの活用事例について、紹介する。	B																						
<b>資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み</b> ○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、合格率目標を定め、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、受験にあたり事前学習を実施したか。	●合格率の向上に向け目標は設定したが学生の意欲を向上できなかった。 ●毒物劇物取扱者試験合格率は10.6%と昨年に比較して低かった。 ●事前学習は実施できなかったが、毒物劇物取扱責任者、農業簿記等について実習の休み時間や学生とのコミュニケーションの中で必要性やワンポイントアドバイスをを行った。授業・実習・行事のあいだでの学習とため時間に限られる。	・各種行事や試験が連続するなどゆとりがない状態もあることから計画的に早めの準備をして取り組ませる。 ・学生に優先順位をつけさせ、就農・就職に重要な資格等から受験させる。 ・演習時毎回小テストを実施、解法を解説する。	C																						
<b>総合農学科のあり方の検討</b> ○ 社会のニーズをふまえた総合農学科のコース変更のあり方の検討ができたか。	○農業経営コース受験者で、面接の状況などから実践経営者コースに適合していると思われる者については受験を勧めた。 ○合格者の入学後のコース変更は、両コースの授業計画が異なるため困難と判断とした。	・農業経営コースから実践経営者コースへの変更については、受験時での適合者への勧奨にとどめ、合格後の変更については行わないこととした。	B																						
<b>実習農場の充実</b> ○ 十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を確保できたか。  ○ 新植ブドウ園の計画的な管理はできたか。  ○ 効率的な機械利用により水田の漏水、排水対策は実施されたか。 ○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。	○事前の調整により、専攻実習・プロジェクト活動用のほ場やハウスは十分確保できた。 ○H30に新たに確保した優良水田15aをミニプロジェクトとプロジェクト研究等に活用した。 ○新植ブドウ園は新梢管理、土壌管理、病虫害防除の徹底により、目標樹形へ誘導できた。 ○畔塗りや丁寧な代掻き作業による水田の漏水対策、排水対策を実施した。 ○松代町清野地区の野菜農家の遊休ハウスの活用や農大研修部の圃場を活用することにより農場等を確保した。	・プロジェクト活動計画に基づき早期からほ場の利用計画を作成する。  ・一部の新梢の伸長が鈍い樹は、新品種に植え替える。 ・強湿田には、晩生種を作付ける。	B																						
<b>実習農場の管理・運営</b> ○ 収穫時期を踏まえた作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習前に、更なる基礎的な知識、技術が理解できたか。  ○ 特別教授の弾力的な業務分担等により、各専攻とも適期にほ場管理ができたか。	○農場等利用計画に基づき年間を通じたほ場の有効活用を図った。また、計画的に「のうだい屋」で販売するよう作付けた。 ○各作物栽培に必要な基礎的な知識や作業について、講義・実習ができた。 ○現地体験実習前に、事前実習として刈払機・小農具の使い方やロープの結び方を実習した。また、各作目総論の主要部分の講義を後半の現地体験実習前に実施した。 ●専攻学生数が多いと一人当たりの指導時間が少なくなってしまう。また、学生によって事前の理解度が異なるため習熟度に違いがある。 ○各専攻毎の繁忙期には、業務の補充により適期作業を行ったが、秋季の天候不順や台風により収穫が遅れてしまったり収穫できなかったりした品目があった。 ○本年授業で利用しない果樹園も適正に管理した。	・大豆では気象災害を避けるため、早生種の作付けを増やし、晩生種を減らす。  ・実習時間以外に知識・技術の習得をさせる(講義時間の利用、補習授業の実施)。	B																						

進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就職を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学内掲示板、ホームルームなどを活用した求人情報の提供がなされたか。</li> <li>○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。</li> <li>○ 2年生は12月末を目途に全員の就職及び就職先等決定するよう指導できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4月の個別面談結果に基づき、それぞれの進路希望に沿った求人情報の提供を行った。また、教務室前掲示板にも情報を掲示した。</li> <li>○ 1年生は、4月の個別面談で進路希望を把握するとともに、11月に学生、保護者との三者面談を開催して卒業後の進路について指導した。</li> <li>○ 1年生には11月の三者面談結果をもとに全員に対して特別教養講座をスタートさせるとともに個別に求人情報やインターンシップ情報を提供した。</li> <li>○ 2年生は12月末までに全員の進路決定を目指し指導したが、1月20日現在2名が未決定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる学生への意識付けと就職意欲の醸成のため、迅速な情報発信に努めた。</li> <li>・また、学生個々の性格に合わせて早い時期から働きかける。</li> </ul>	B
生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	<b>職員の取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年担当学務会議や学生部の打ち合わせが定期的に行われ、教授間の情報共有や役割分担、全員で指導する体制ができたか。</li> <li>○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。</li> </ul> <b>学生自治会活動の支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寮生活や自治会活動を通じた規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高める指導ができたか。</li> <li>○ 全ての自治会専門部が定期的に開催され、年間事業計画による自主活動が強化されたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期的な学年担当学務会議は開催していないが、自治会執行委員会や教務会議を通じて、教授間の情報共有や役割分担を行い、全員での指導体制はとれた。</li> <li>○ 4月に交通安全・防犯研修会、5月に健康講座を開催するとともに、ホームルームを通じて交通安全の啓蒙を行うとともに、生命尊重やルール遵守の意識を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務会議後に必要に応じて学年担当学務会議を開催する。</li> </ul>	B
	自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寮生活を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。</li> <li>○ 各コース間および学年間の交流が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寮生活、クラブ活動や体育大会を通して先輩・後輩の関係を学びお互い助け合うなど他人を尊敬し思いやる心を育てることができた。</li> <li>○ 2年生主催の1年生歓迎会の開催や自治会への1年生役員の同席など、学年間の交流を図ることができた。</li> <li>○ プロジェクト発表会や意見発表会あるいは災害ボランティア活動を通して生命を尊重する精神を養うとともに各コース間および学年間の交流が行えた。</li> </ul>		B
	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	<b>農業機械の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備は充分確保されているか。</li> <li>○ 農業関連企業との連携や職員研修により、導入した農機と設備の効率的利用ができたか。</li> </ul> <b>機械の適正な管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。</li> <li>○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理機の更新を行ったが、他の機械や一部施設が更新できていない。</li> <li>● 一部老朽化した機器の故障により、作業の中断、遅延等が発生し、授業計画に影響を及ぼした。</li> <li>○ 農業機械メーカーとの連携授業により、最新の機械にふれる授業を実施するとともにプロジェクト研究へも活用した。9月にハウス環境観測機器も導入し指導に役立った。</li> <li>○ 機械の安全操作等に関する職員研修を3月2日に実施する予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械と設備の計画的な更新を図る。</li> </ul>	B
学校運営	学校用地や施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実習棟、機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。</li> <li>○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農場総合管理棟、機械庫をイベントに合わせて整頓、掃除したが、実習時間後の清掃は不十分なものもあった。</li> <li>○ 冬期休暇前に旧畜産関係棟の整理整頓を行った。</li> <li>○ 職員による学校用地の除草を行い、施設に修繕箇所が生じた場合は速やかに対応した。また校舎1階の清掃も週1回定期的実施した。</li> <li>○ 学生による定期清掃を月一回設定し、台風や授業変更での中止以外は実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対しGAP(生産工程管理)授業で、整理整頓に十分取り組むよう指導する。</li> </ul>	B
	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。</li> <li>○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習を行い、農業大学校への関心を高めることができたか。</li> <li>○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。</li> <li>○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校案内を刷新して2500部作成し、募集チラシとともに県内全高校や希望者に配布した。</li> <li>○ サンデー見学会(参加者30名)、オープンキャンパス(参加者111名)、体験学習(参加者12名)を行った。全て参加者は昨年を上回った。</li> <li>○ オープンキャンパスでは、アンケート回答者55人のうち67%を超える37人が「当校に進学したい気持ちが高まった。」と回答した。</li> <li>○ 予定したすべての高校(77校)訪問を行った。また会議やガイダンスで職員が直接高校にPRを行った。また進路指導担当教諭会議を開催し農大のPRや情報収集ができた。</li> <li>○ 「農大・農高の連携会議」を開催した。また、1泊2日の農業高校生体験学習を実施できた。</li> </ul>		A
	ホームページの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専用サイトの各専攻のブログは、具体的目標を定めて更新できたか。</li> <li>○ 改革を進めている農大の教育内容や就職支援、同窓生の活躍の様子、長野県農業の魅力などを、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。</li> <li>○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。</li> <li>○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方が検討されたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専用サイトのブログでは、校内行事や授業など平均して月2回以上の情報提供を行った。</li> <li>○ 農大ホームページにおいて、学校評価の公表、学習内容・進路や授業料等の紹介、入試案内、オープンキャンパスや農大祭、実践経営者コース説明会などの行事の紹介を行い積極的にPRした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月にはHP更新を行う。</li> </ul>	B
	予算執行の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農場は専攻別に、管理運営費は費目別に予算執行状況を把握し、職員への情報提供及び執行時期等の調整を行い、計画的な予算執行に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き計画的な予算執行に努める。</li> </ul>	B

(2)実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R元評価
			成果と課題	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。</li> <li>○ 2年生における模擬経営の充実を図り、就職後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就職を見据えた内容を反映するなど充実した実習を実施した。また、農業経営体験実習についても、次年度の模擬経営等を実施するための技術習得をした。</li> <li>○ 就職予定地で模擬経営を実施した2年生は、自分事として課題を把握し、次年度に向けて対策を立てた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習効果をさらに向上するため、各作物の適切な作業タイミングに合わせた農業経営体験実習を実施する。</li> </ul>	A
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就職を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就職支援プログラムに基づき、関係機関とも連携して就職形態に応じた計画的、きめ細かな個別就職支援ができたか。</li> <li>○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就職支援が一体的に実施できたか。</li> <li>○ 卒業後のアフターフォローが実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 両学年とも、就職地の関係機関と連携し、円滑な就職に向けて個別支援した。</li> <li>○ 職員は必要に応じて連携(担任と品目専攻職員、担任と就職技幹、担任と学科主任、担任と普及センター職員等)し、一体的に運営と就職支援を行った。</li> <li>○ 卒業生の状況把握を行い、必要に応じて普及センターと連携してアフターフォローした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き関係機関と連携した在学生への就職支援と、卒業生へのアフターフォローを行う。</li> </ul>	B

学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。</li> <li>○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。</li> <li>○ 専用ブログやメディアの活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。</li> <li>○ 3回の入試を行い、令和2年度入学者の確保に努めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8回の就農相談会でのコース説明、農大内でのコース説明会の開催、高校訪問時の説明などPR活動を行った。</li> <li>○ 募集チラシを作成し、関係機関団体へ配布し募集を周知した。</li> <li>○ 新たにテレビ、ラジオでのコース紹介と学生募集を行いPRに努めた。</li> <li>● 例年どおり3回の入試を行った。10人の応募があり7人の合格であった(H31入学者数は上回った)。</li> <li>● 近年、社会逃避型の受験生が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農相談会での積極的な働きかけを行う。</li> <li>・さらに市町村やJA等の関係機関、団体と連携を強化する。</li> <li>・様々な媒体を活用してPRを行う。</li> </ul>	C
------	----------------	--	---	---	---

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R元評価
			成果と課題	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生によるプロジェクト巡回は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。</li> <li>○ 1年生は全ての専攻でミニプロジェクトが実施されたか。</li> <li>○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察が取り入れられたか。</li> <li>○ プロジェクトでの生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。</li> <li>○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋と農大祭が実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7月18日に圃場で2年のプロジェクト内容を聞いた。1年生には事前によくの質問を考えさせ、質疑応答が活発だった。</li> <li>○ 1年生のミニプロジェクトはすべての専攻で実施した。試験区の設定方法、生育・収量・品質調査方法、測定機器の使い方やとりまとめ方法を指導した。</li> <li>● 6月から9月の現地体験実習と重なり、野菜専攻では調査方法指導が十分できなかった。</li> <li>○ 全学生が経済性の検討を行うよう計画し、必要に応じて販売価格の調査や労働時間の計測等を実施できた。</li> <li>○ 学生の作った野菜、くだものを、8月、9月のながの軽トラ市in篠ノ井で販売した。</li> <li>○ のうだい屋を全6回(1学年主体4回、2学年主体2回)実施し、直接販売体験ができた。また農大祭も予定どおり実施できた。のうだい屋、農大祭とも来場者数、売上ともに昨年を大幅に上回る実績であった。のうだい屋では両学年の共同による作業時間が欲しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のうだい屋開催前に1学年・2学年担当者間で時間調整を行う。</li> </ul>	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就職を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。</li> <li>○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。</li> <li>○ インターンシップや法人等合同説明会等を通じ円滑な就職への取り組みができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生は、就農までの道筋や経営指標の使い方、各種制度や先進農家や就農した卒業生の講義(3回)や現地実習を行い就農への意識や理解を高めた。</li> <li>○ 2年生は、各自で就農計画の作成を行うよう指導するとともに、農業経営力養成講座の受講により、就農や法人就職後の対応力を高めた。また、就農希望者へは個別に支援を行った。</li> <li>○ 法人説明会や会社訪問など法人との接点を多くし、雇用就農への動機付けを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き農業経営演習では、就業意欲を高めるような授業を行うとともに、就農を希望する者に対して就農支援プログラムに基づく支援を行う。</li> <li>・雇用就農については、法人説明会への出席を促すなど法人との接点を多くし、理解を深める対応をする。</li> </ul>	B
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3回の入試を行い令和2年度入学者の確保ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 推薦入試、前期・後期日程の入試によりほぼ定員を確保した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き質の良い受験生を確保し、入学辞退者を減らす必要がある。</li> </ul>	B